

[066_03]Keizaigaku=Kenkyu (Journal of Political
Economy)

<http://hdl.handle.net/2324/4362567>

出版情報：経済學研究. 66 (3), 1999-12-31. Society of Political Economy, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



近 昭夫 教授 略歴

1958年 3月 北海道立夕張南高等学校卒業
1958年 4月 北海道大学文類入学
1960年 4月 北海道大学経済学部進学
1962年 3月 同 卒業
1962年 4月 北海道大学大学院経済学研究科修士課程入学
1964年 3月 同 修了
1964年 4月 北海道大学大学院経済学研究科博士課程入学
1967年 3月 同 単位取得退学
1992年 3月 博士（経済学）

1967年 4月 静岡大学人文学部法経学科講師
1970年 4月 同 助教授
1980年 4月 同 経済学科教授
1994年 4月 九州大学経済学部教授

所属学会等

経済統計学会（1962年～現在）
日本統計学会（1962年～現在）
International Association for Official Statistics（1986年～現在）
日本学術会議経済統計研究連絡委員会委員（1991年10月～1994年9月）
経済統計学会代表運営委員（1998年10月～2000年9月）

近 昭夫 教授 著書・論文目録

著 書

- 『統計的経済学研究－計量経済学の成立過程とその基本問題－』梓出版社 1987年 ix+342ページ
『チュプロフの統計理論』産業統計研究社 1987年 ii+124ページ

編著・共編著

- 編著『統計・企業情報データベースと経済分析』青木書店 1996年 310ページ (分担：はしがき, 第2章 3-5, 31-60ページ)
共編著『経済分析と統計的方法』産業統計研究社 1982年 iv+335ページ (分担：序文, 第2章, 第4章, 第5章 i-iv, 27-61, 87-141, 142-176ページ)

共訳書

1. R. クリュエーガー・L. ダストン・M. ハイデルベルガー 編著『確率革命－社会認識と確率－』梓出版社 1991年 v+427ページ (分担：第5, 10, 11章 191-199, 278-347ページ)
2. T.M. ポーター『統計学と社会認識－統計思想の発展 1820-1990－』梓出版社 1995年 xii+406ページ (分担：はしがき, 序論, 第I部 i-vii, 3-106ページ)

論 文

1. 「P. ローレンツのトレンド論について」北海道大学大学院生経済研究会『北大経済学』第4号 1963年10月 131-155ページ
2. 「いわゆる『理論的傾向線』についての一考察」『北大経済学』第6号 1964年11月 1-29ページ
3. 「オスカー・アンダーソンの時系列分解論－階差法の基礎理論に関する学説史的一考察－」『北大経済学』第7号 1965年4月 93-127ページ
4. 「G. U. ユールの時系列解析論」経済統計研究会『統計学』第15号 1966年1月 21-47ページ
5. 「M. G. ケンダールの時系列解析論」北海道大学『経済学研究』第16巻第2号 1966年8月 179-202ページ
6. 「大数法則をめぐる諸問題」『統計学』第17号 1967年5月 39-59ページ
7. 「『ノモグラフィア的科学』と『イディオグラフィア的科学』－A. A. チュプロフにおける統計学および統計的方法の意義－」静岡大学『法経研究』第16巻第2号 1967年11月 33-55ページ
8. 「A. A. チュプロフにおける帰納法と『統計的方法』」『法経研究』第16巻第3・4号 1968年2月 97-116ページ
9. 「A. A. チュプロフの大数法則論について」『法経研究』第17巻第1号 1968年6月 51-73ページ
10. 「統計的系列の安定性に関する A. A. チュプロフの見解について」『法経研究』第18巻第2号 1969年12月 63-85ページ

11. 「静岡県経済の再生産構造について」『法経研究』第18巻第4号 1970年3月 73-90ページ
12. 「A. A. チュプロフの相関理論について」『法経研究』第19巻第1号 1970年8月 119-136ページ
13. 「A. A. チュプロフの統計理論」『統計学』第22号 1970年9月 17-33ページ
14. 「いわゆる『逐次モデル』について」『法経研究』第20巻第2号 1971年11月 57-73ページ
15. 「T. ホーヴェルモにおける“同時決定論”の展開—『同時体系』のパラメータ推定法をめぐって—」『法経研究』第21巻第4号 1973年3月 61-83ページ
16. 「いわゆる『統計学=反映・模写論』への疑問」『統計学』第26号 1973年5月 79-91ページ
17. 「『ケインズ革命』の意義と限界」佐藤博編著『現代経済学の源流』日本評論社 第3章 1975年 95-172ページ
18. 「ケインズ経済学の発展と評価の変遷」同上 第4章 173-195ページ
19. 「ケインズ経済学評価の問題点」新日本出版社『経済』152号 1976年12月 69-77ページ
20. 「統計の利用・批判 III 統計解析」経済統計研究会編『社会科学としての統計学—日本における成果と展望—』第5章III 1976年 150-161ページ
21. 「統計学の課題と研究の動向」『経済』157号 1977年5月 189-201ページ
22. 「東海地域における公共投資」上原信博編著『地域開発と産業構造』御茶の書房 第4章 1977年 133-156ページ
23. 「H. L. ムーアの『統計的経済学』について」『法経研究』第27巻第3号 1979年2月 1-47ページ
24. 「コップ・ダグラスの生産関数について—限界生産力理論の経験化をめぐって—」『法経研究』第29巻第2号 1980年11月 1-48ページ
25. 「いわゆる“ピットフォール論争”の意義について」『法経研究』第33巻第2号 1984年12月 1-59ページ
26. 「“時系列モデル”派による計量経済モデル批判について」『法経研究』第33巻第3・4号 1985年3月 1-28ページ
27. 「統計学基礎理論—二つの問題をめぐって—」経済統計研究会編『社会科学としての統計学』第2集 第1章I 1986年 5-16ページ
28. 「回帰分析と多重共線性—R. フリッシュの研究をめぐって—」『法経研究』第35巻第1号 1986年9月 1-45ページ
29. 「浜松地域における雇用の動向」上原信博編著『先端産業と地域開発』御水書房 第II章4 1988年 131-173ページ
30. 「科学史研究者による統計学史研究について」経済統計学会『統計学』第58号 1990年3月 70-79ページ
31. 「“経済のサービス化”の実態を把握する一つの試み」上原信博編著『構造転換期の地域経済と国際化』御茶の水書房 第3章 1992年 75-118ページ
32. 「就職構造の変化—経済のサービス化をめぐって—」伊藤陽一・岩井浩編著『労働統計の国際

比較』梓出版社, 第2章 1993年 17-45ページ

33. 「福岡市における統計調査環境の変化 (統計調査環境の変容: 1978年調査との比較—都市部—) 法政大学日本統計研究所『研究所報』No. 21 1995年7月 25-52ページ
34. 「サービス業従業者数増加の実態分析と統計」伊東弘文・徳増俣洪編著『現在経済システムの展望』九州大学出版会 1997年 3-27ページ

そ の 他

1. 「最近のソヴィエト統計学についての覚書き (資料)」経済統計研究会『統計学』第19号 1968年9月 86-96ページ
2. 書評: 「関 恒義著『経済学と数学利用』」『統計学』第37号 1974年9月 70-79ページ
3. 「高度蓄積と財政」統計指標研究会『統計 日本経済分析 上』新日本出版社 1977年 321+xページ (分担: 第5章1, 2節 146-154, 162-182, 194-208ページ)
「社会保険と社会福祉」統計指標研究会『統計 日本経済分析 下』新日本出版社 1978年 321+xi ページ (分担: 第14章1節 210-212, 235-241, 268-270ページ)
4. 「“経済のサービス化”とその統計的研究をめぐって」『経済の構造変化・サービス化が統計体系・税収・価格形成に及ぼす影響に関する総合研究』(科学研究費研究成果報告書 研究代表者近昭夫) 第1章 1988年3月 1-45ページ
5. 書評: 「Mary Morgan, *The history of econometric ideas*」経済統計学会『統計学』第60号 1990年3月 47-52ページ
6. 「研究目的および今年度の研究経過と成果」『企業情報データベースによる日本経済のグローバル化の実態把握に関する研究』(科学研究費研究成果報告書 第1年度 研究代表者近昭夫) 序章 1991年3月 1-9ページ
7. 学会報告: “An Issue concerning Service Economy and Industrial Classification,” *Proceedings of The Third Independent Conference of International Association for Official Statistics*, International Statistical Institute, 22-25 September 1992, Ankara, Turkey. pp. 1-3.
8. 「海外進出日系企業の経済活動にかんする統計データについて」『企業情報データベースによる日本経済のグローバル化の実態把握に関する研究』(科学研究費研究成果報告書 第3年度 研究代表者 近昭夫) 第1章 1993年11月 1-29ページ
9. (共著) 「日本企業のカナダ進出の現状に関するヒヤリング調査報告」静岡大学『法経研究』第43巻第3号 1994年3月 23-63ページ
10. 「ISI 第49回 (フィレンツェ) 大会に参加して」『統計学』第66号 1994年3月 61-63ページ
11. 「サービス経済の国際比較と標準産業分類」『グローバル統計の編成可能性の検討—国際統計から脱皮するための問題点の検討—』(科学研究費・重点領域(1)研究成果報告書 研究代表者 松田芳郎) 1995年3月 5-30ページ
12. 学会報告: “A Statistical Comparison of the Service Economies,” *Bulletin of the International*

Statistical Institute, 50th Session, Beijing 1995, Contributed Papers, Book 1, pp. 629-630.

13. コメント：「統計学の現在の課題について」 経済統計学会『社会科学としての統計学 第3集』（『統計学』第69・70合併号 [創刊40年記念号]）1996年3月 34-37ページ
14. 学会報告：“A Statistical Analysis of the Employment Growth of Service Industries in Japan,” *Bulletin of the International Statistical Institute*, 51th Session, Istanbul 1997, Contributed Papers, Book 1, pp. 127-128.
15. 書評：「吉田 忠・石原健一編『統計にみる日本経済』『農林統計調査』1999年6号 58-59ページ
16. 学会報告：「統計学の課題について」第3回日中統計学研究会報告論文 1999年10月10日（中国 嘉興市）

教科書等

1. 「統計利用(3)―時系列解析―」内海庫一郎・木村太郎・三瀧信邦編著『統計学』有斐閣 1996年 283ページ（分担：第10講 118-137ページ）
2. 「景気統計―景気観測法の問題点―」内海庫一郎編著『社会科学のための統計学』評論社 1968年 394ページ（分担：11章 277-302ページ）
「最近の犯罪動向について」同上（補論2 170-185ページ）
3. 「統計の加工」三瀧信邦・山田貢・他『統計学入門』有斐閣新書 1978年 192ページ（分担 第3章1, 2, 3 72-99ページ）
4. 「時列解析」大屋祐雪・野村良樹・広田純・是永純弘編著『統計学』産業統計研究社 1984年 318ページ（分担：第11章 140-154ページ）
5. 「度数分布」, 「時系列」近昭夫・木村和範・森博美編著『演習 統計』産業統計研究社 1984年 52ページ（分担：1, 6 2-3, 12-13ページ）
6. 「統計加工(1)」, 「統計加工(2)」 三瀧信邦・関弥三郎編著『経済統計論』有斐閣 1985年 319ページ（分担：第6章, 第7章 87-149ページ）
7. 「データの要約と記述：統計の利用の仕方(2)」横本 宏・杉森滉一編著『エレメンタル 経済統計』英創社 1995年 213ページ（分担：第6章 96-121ページ）

翻 訳

1. 「旧露統計学に関する資料 エヌ・カ・ドゥルジーニン『カ・ゲルマンからユ・ヤンソンまで』上・下 静岡大学『法経研究』第17巻第3号, 第4号 1968年12月, 1969年3月 93-112, 133-149ページ
2. ベ・シュリャベントフ『計量経済学批判』北海道大学経済学部経済統計学研究室『日本経済に関する参考資料』No. 6 1978年3月 168ページ
3. マールイ『資本論と統計』是永純弘監訳 大月書店 1980年 iv+248ページ（分担：はしが

き, 第1章 1-84ページ)

マールイ『レーニンと統計』佐藤博監訳 大月書店 1980年 v+227ページ(分担: 第2章 55-78ページ)

4. モリソン・ヘンケル『統計的検定は有効かー有意性検定論争ー』内海庫一郎他監訳 梓出版社 1980年 (12)+388ページ(分担: 第10章, 第11章 150-185ページ)

5. ビーン『国際労働統計』伊藤陽一他訳 梓出版社 1990年 vii+334ページ(分担: 第8章 174-212ページ)